

2025 年 12 月 5 日

名古屋市長 広沢一郎 殿

「市道弥富相生山線工事再開」方針の撤回を求めます

11 月 21 日、市議会本会議の議案外質問の答弁において、市長は、市民・住民の意向を確認されないまま、また市民・住民との合意形成がなされないまま「工事の早期再開を目指す」方針を明らかにしました。相生山緑地が分断されることなく名古屋市の財産として残されるように速やかな方針撤回を求めます。

12 月 1 日の定例記者会見において市長は、「工事再開」に関する質問に対して大きく三点について説明をされました。以下のようにまとめましたのでお答えください。

① 前河村市長の後継者として「道路廃止表明」の精神を引き継いで下さい。

自然は一旦破壊されると、元には戻りません。前市長は「自然を大切にしようという精神でいこうと、それが根本」とし COP10 開催時に「道路廃止表明」をしました。これとは真逆の方針を打ち出されたその根拠・理由をお聞かせください。

② 「道路は廃止してほしい」とする多くの住民の意向を確かめて下さい。

市が示した「折衷案」は双方の意見の「折衷案」になっていません。「道路推進」の意見だけが取り上げていますが、緑地を分断する道路建設は温暖化対策に相反していませんか？新たな渋滞などによる生活環境への不安や危機感などを覚える人たちの意見についてどのようにお考えですか？

③ ヒメボタルなどの成育環境調査をし、相生山緑地の生態系への影響を検証して下さい。

市長は環境へのデメリットへの対策を挙げていますが、道路ができれば、通行による騒音・振動などの動植物への影響、緑地の分断による生態系への影響、更に施工のために広範囲の樹木の伐採、土地の改変が余儀なくされ、また地下水脈への影響が危惧されます。これらの問題についてどのようにお考えですか？

以上